# 道徳科学習指導案

日　時　令和８年１月 27 日（火）
第５校時　13:35～14:20
学校名
対　象　第２学年　組　　名
会　場　２年　組教室
授業者

## １　主題名

みんな同じに接すると　Ｃ　公正、公平、社会正義

## ２　ねらいと教材名

⑴　ねらい　自分の好き嫌いにとらわれないで、誰に対しても公平に接しようとする態度を育てる。
⑵　教材名　「大すきな　フルーツポンチ」（出典：『新編 新しい道徳２』東京書籍

## ３　主題設定の理由

⑴　価値観

本主題は、小学校学習指導要領（平成 29 年３月告示）

> 第３章　特別の教科　道徳　　第２　内容
> Ｃ　主として集団や社会との関わりに関すること
> ［公正、公平、社会正義］第１学年及び第２学年
> 自分の好き嫌いにとらわれないで接すること。

を受けて設定した。

小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　特別の教科　道徳編には、「集団や社会において公正、公平にすることは、私心にとらわれず誰にも分け隔てなく接し、偏ったものの見方や考え方を避けるよう努めることである。」と記されている。また、第１学年及び第２学年の指導の要点では、「公正、公平な態度に根差した具体的な言動を取り上げて、そのよさを考えさせるようにすることが大切である。」「児童が誰に対しても公正、公平に接することのよさを実感できるようにすることが大切である。」とも記されている。

これを受け、児童が自分の好みや利害に捉われず、誰とでも分け隔てなく接することができるようになるためには、公平のよさを考えたり、実感したりすることが大切であると考えた。教材に登場する人物の心情について考え、話し合うことを通して、自分の好き嫌いにとらわれず、誰に対しても公平に接しようとする態度を育てていく。

⑵　児童観

本学級の児童は、進級に伴う学級編成替えがなく、第１学年の時から多くの時間を共に過ごしている。そのため、学習や生活の両面で自然と声を掛け合って、仲よく協力して過ごす姿がある。しかし、その一方で、自分の好みによって態度を変えることがある。また、他の人も自分と同じ感じ方や考え方であると思い込み、違った感じ方や考え方を否定する場面が見られる。これは、この時期の児童に自己中心的な側面があるからだと考えられる。本時の授業に当たりアンケート（令和７年 12 月 16 日（火）実施）を行ったところ、結果は、以下の通りだった。

【事前アンケート】（令和７年 12 月 16 日（火）実施　34 人回答）

| | 項目 | 回答 |
|---|---|---|
| 1 | ケーキをもらうとき、自分だけ小さかったらどう感じますか。 | ・　ずるい、悲しい。　（29 人）<br>・　特に何も感じない。（０人）<br>・　分からない。　（５人） |
| 2 | 仲よしの友達をついつい特別扱いしてしまったことはありますか。それは、どんな出来事でしたか。 | ・　ある。　（26 人）<br>・　ない。　（２人）<br>・　分からない。（６人）<br>【出来事】<br>・　仲よしの友達とだけトイレに行こうと誘ってしまう。<br>・　何で遊ぶか意見がまとまらないとき、仲よしの友達の意見に賛成してしまう。<br>・　仲よしの友達だけにシールをあげてしまった。<br>・　鬼ごっこをしているとき、仲よしの友達は逃げ切って欲しいから、追いかけなかった。<br>・　仲よしの友達に給食で「少なくして」と言われて、少なくしたことがある。<br>・　特別な物を仲よしの友達には見せたけど、みんなには見せなかった。<br>・　仲よしの子には挨拶をしているけれど、そうじゃない子には挨拶しない。 |
| 3 | これまでに、①みんな同じに接したことはありましたか。②みんなと同じように接してもらえたことは、ありましたか。それは、どんな出来事でしたか。 | 【①の回答】<br>・　手紙を配るとき、みんな同じように丁寧に配っている。<br>・　鬼ごっこのとき、みんな平等に追いかけている。<br>・　拍手をするとき、みんな同じように拍手している。<br>・　誰が落として物をしても、同じように拾うのを助けている。<br>・　給食当番のとき、できるだけみんな同じに配っている。<br>・　みんなで遊んでいるとき、おやつをみんな同じ数ずつ渡した。<br>・　貸してと言われたら、みんなに貸してあげる。<br>・　おかしを渡すとき、家族みんなに同じものを配った。<br>・　みんなで遊ぶとき、仲間はずれをしない。<br>【②の回答】<br>・　他の人と同じように、鬼ごっこに誘ってくれた。<br>・　みんなが同じように挨拶をしてくれる。<br>・　友達が私と友達のみんなにお土産をくれた。<br>・　みんなと同じように丁寧にプリントを配ってくれた。<br>・　忘れ物をして困っているとき、私にも貸してくれた。<br>・　給食の量をみんなと同じように配ってくれた。<br>・　友達が違う友達だけでなく、私にもクリスマスのプレゼントをくれた。<br>・　友達が他の人と同じように自分のも靴そろえをしてくれた。 |

アンケートの結果から、不公平な状況に自分が置かれると嫌な気持ちを抱くのに、公平な態度をいつも取ることができていないことが分かる。公平でない状態に不快さを抱くのに、なぜ、公平な態度が取れないのかを問い、公平な態度でいることの難しさに目を向けられるようにする。その上で、公平に接するために大事なことについて考え、ねらいとする道徳的態度を育てていく。

⑶　教材観

【教材の概要】

本教材は、主人公の「ぼく」が給食の人気メニューであるフルーツポンチをみんなに配る内容になっている。「ぼく」は、給食当番となり、全員に配ることができるように気を付けてよそい始める。しかし、仲よしのしゅんたさんが来ると、多く入れてあげたいという気持ちになった。そこで、大人しいけんちゃんを少なくしようと考えて、しゅんたさんに多くよそってしまう。そのとき、それを見ていたかおりさんに「どうして」と指摘される。

【教材文活用の視点】

仲よしの友達を特別扱いすることは、周りのみんなを不快にさせることにつながる場合がある。自分の好みで態度を変えると公平さを欠いてしまうということが、本教材は分かりやすく描かれている。また、友達に対する偏った見方や接し方をする人間の弱さも十分に感じられる教材になっている。

【教材分析】

| 場面（登場人物の言動） | 心の動き | ○　発問 ◎　中心発問<br>（ねらいに関連する価値） |
|---|---|---|
| 給食の時間が始まり、みんな同じ量になるように気を付けながらフルーツポンチを配り始める「ぼく」 | ・　やった給食だ。<br>・　みんなの嬉しそうな顔を見るのも楽しみ。<br>・　みんな同じ量になるように配るぞ。 | ○　気を付けながらよそい始めた「ぼく」は、どんなことを考えていたでしょう。<br>（C　勤労、公共の精神） |
| しゅんたさんが目の前に来たときの「ぼく」 | ・　しゅんたさんに多く入れたら喜んでくれるだろうな。<br>・　足りなくなったらどうしよう。<br>・　けんちゃんは文句を言わないだろう。 | |
| しゅんたさんの器にフルーツポンチをたくさん入れた「ぼく」 | ・　しゅんたさん、喜んでくれるかな。<br>・　けんちゃん、ごめん。許してね。<br>・　みんなにばれなければ平気だよ。大丈夫。 | ○　しゅんたさんの器にフルーツポンチをたくさん入れたとき、「ぼく」は心の中でどんなことを思っていたでしょう。<br>（A　善悪の判断、自律、自由と責任）<br>（B　親切、思いやり）<br>（B　友情、信頼）<br>（C　よりよい学校生活、集団生活の充実） |

| | | |
|---|---|---|
| かおりさんに「どうして、しゅんたさんのだけそんなに多いの」と指摘された「ぼく」 | ・　ばれてしまった。どうしよう。<br>・　まずい。怒られる。<br>・　まずいことをしてしまった。やらなければよかった。<br>・　仲よしなんだから、いいだろう。 | ◎　「どうして、しゅんたさんのだけそんなに多いの。」というかおりさんの声を聞いた「ぼく」は、どんなことを考えたでしょう。<br>（A　善悪の判断、自律、自由と責任）<br>（A　正直、誠実）<br>（B　友情、信頼）<br>（C　規則の尊重） |

## 4　年間指導計画における位置付け

１月　主題名　公平にすると　　C　公正、公平、社会正義　（本時）
　　教材名　「大すきなフルーツポンチ」

## 5　指導に当たって

ア　教材を提示する工夫

場面絵を追加し、紙芝居風に提示しながら読み聞かせをする。座席をコの字型にして、前に集めて読み聞かせを行う。間を取りながら読むことで、主人公である「ぼく」の気持ちを想像しやすくする。

イ　話合いの工夫

ハンドサインによる意思表示によって自分の考えを表現できるようにする。中心発問では、児童相互の考え方、感じ方を出し合って、共有し、多様な考え方に出合えるようにするためにペアでの対話を行う。

ウ　書く活動の工夫

自己を見つめる発問においては、児童が自らの考えを深めたり、整理したりするために、書く活動を行う。また、事前アンケートの結果を活用し、アンケート用紙の裏面に書けるようにすることで、児童自らが変容を実感し、自分との関わりで捉えられるようにする。

エ　発問構成の工夫

中心発問の前に、主人公である「ぼく」が仲よしの友達に公平さを欠く行動をしてしまう心の内面を考えることを通して、公平に接することの難しさを十分に感じられるようにする。その上で、中心発問で、「かおりさんの声を聞いた『ぼく』は、心の中でどんなことを思ったでしょう。」と発問し、公平に接するために大事なことに気付けるようにする。このように、発問に関連性をもたせ、ねらいに迫っていく。

## ６　本時

⑴　学習指導過程

| 時間 | 学習内容・学習活動<br>○　発問　◎　中心発問　・　予想される児童の発言 | ◇　指導上の留意点<br>◆　評価の視点 |
|---|---|---|
| 導入<br>３分 | １　本時の学習への意欲・関心、問題意識をもつ。<br>○　アンケートの結果を見ましょう。特別扱いをされて嫌な思いをする人が多いのに、自分は特別扱いをすることがあるようです。特別扱いをしないで、みんな同じに接するために大事なこととは何でしょう。一緒に考えてみましょう。 | ◇　事前のアンケート結果を活用しながら進めることで、自分事として捉えられるようにする。<br>◇　主題を意識できるよう、主題名を提示する。 |
| 展開<br>39 分 | ２　教材「大すきなフルーツポンチ」を読んで、発問について考え、話し合う。 | ◇　前に集まって場面絵を見せながら読み聞かせをすることで、物語の世界に引き込み、主人公の気持ちを想像しやすくする。<br>◇　場面絵を用いてあらすじを簡潔に押さえ、教材理解ができていることを確かめる。 |
| | ○　気を付けながらよそい始めた「ぼく」は、どんなことを考えていたでしょう。<br>・　上手に配るぞ。<br>・　みんな同じに配れるように、頑張ろう。<br>・　みんな、嬉しそうだな。<br>・　給食当番、頑張るぞ。 | ◇　始めは、みんなに同じ量を配ろうとしていることやみんなを喜ばせたい気持ちになっていることを確認する。 |
| | ○　しゅんたさんの器にフルーツポンチをたくさん入れたとき、「ぼく」は心の中でどんなことを思っていたでしょう。<br>・　しゅんたさん、喜んでくれるかな。<br>・　しゅんたさんが給食当番のときは多くしてもらえるかもしれない。<br>・　けんちゃんなら文句を言わないから別にいいや。<br>・　黙っていれば、みんなに気付かれないし平気さ。 | ◇　「ぼく」の身勝手な考えやずるさを確認する。<br>◇　仲よしの友達だけを優先する不公平な態度に気付かせるために、多くよそられたフルーツポンチの場面絵と少なくよそられたフルーツポンチの場面絵を黒板に貼る。<br>◇　自分の好みによって行動してしまう人間の弱さを取り上げ、公平な態度で接することの難しさを感じられるようにする。 |

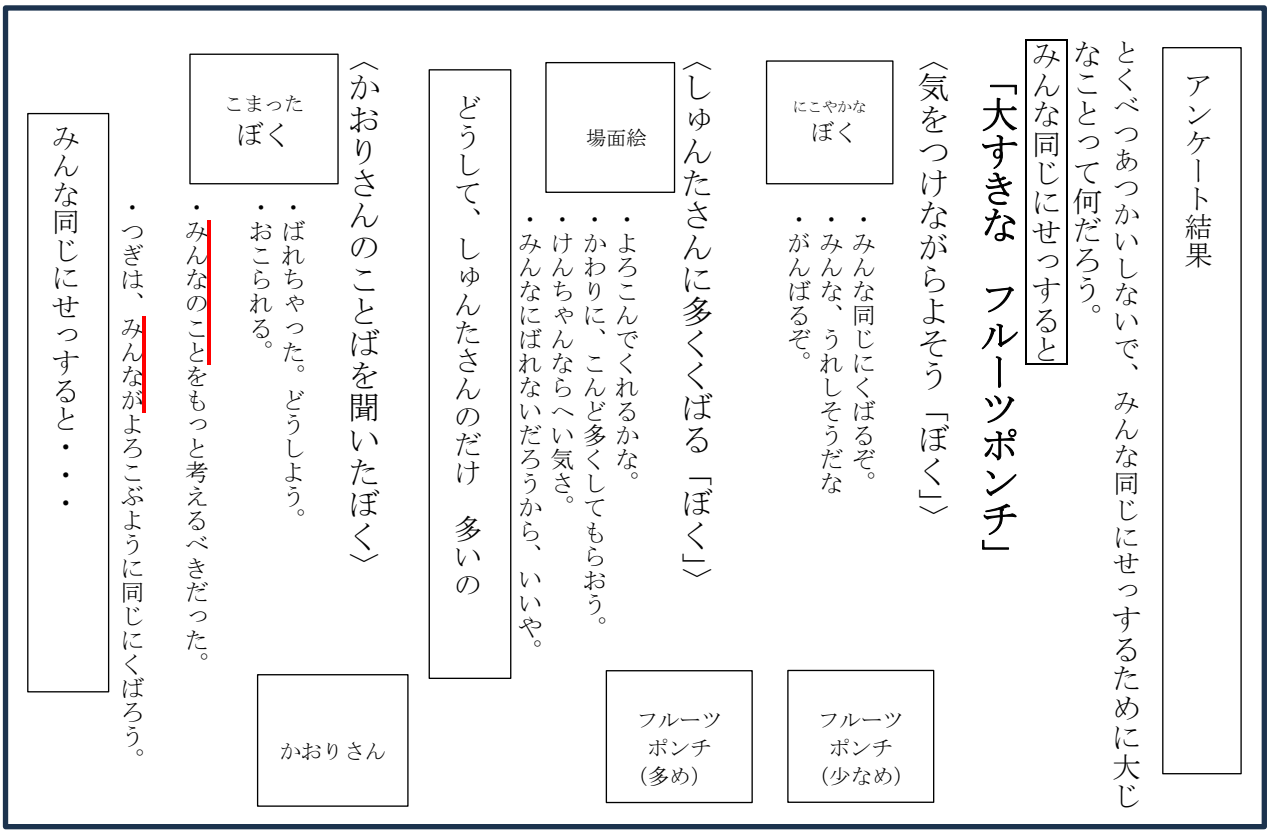
| | | |
|---|---|---|
| | ◎　「どうして、しゅんたさんのだけそんなに多いの。」というかおりさんの声を聞いた「ぼく」は、心の中でどんなことを思ったでしょう。<br>・　ばれた。どうしよう。<br>・　怒られる。やばい。<br>・　やらなければよかった。<br>・　みんなのために、もっと考えればよかった。<br>・　みんな同じにするのが大切だったんだ。<br>・　次は、みんなが喜んでくれるように同じに配ろう。 | ◇　反省や後悔だけでなく、みんなのためになることを考えた発言を取り上げ、公平に接するために大事なことに気付けるようにする。<br>◇　ワークシートに書き、ペアで対話する。その後、全体で共有する。<br>◆　「ぼく」がとった行動の過ちに気付き、「ぼく」の気持ちを多面的・多角的に考えようとしているか。(ワークシート、話合い、発言) |
| | 3　自分自身の生活を振り返る。<br>○　これまでに、特別扱いをしないで、みんな同じに接したり、接してもらったりしたことはありますか。または、誰かを特別扱いしてしまった出来事はありますか。そのとき、どんな気持ちになりましたか。<br>・　仲よしとか、そうじゃないとか関係なくみんなに明るく挨拶している。みんなが気持ちよく過ごせるからこれからも続けたい。<br>・　水筒の持ち帰り忘れを見付けとき、仲よしとか関係なく忘れていた人みんなに声を掛けた。悲しむ人がいなくて嬉しい気持ちになった。<br>・　配るとき仲よしの友達には丁寧に渡したのに、そうじゃない友達には雑に配ってしまった。人によって態度を変えるのはよくないから、これからはみんな同じに配りたい。 | ◇　アンケートを活用し、アンケートの続きに書くことで、児童自らが変容を実感できるようにする。<br>◇　主題について立ち返り、ねらいとする道徳的価値への理解を深める。<br>◆　自分の好き嫌いにとらわれないで、誰に対しても公平に接しようとする態度について、自分自身との関わりで考えているか。(ワークシート、発言) |
| 終末<br>3分 | 4　本時の学習を振り返る。<br>○　教師の説話を聞く。 | ◇　公平についての説話を行い、これからの意欲へとつなげる。 |

⑵　評価

ア　「ぼく」がとった行動の過ちに気付き、「ぼく」の気持ちを多面的・多角的に考えようとしているか。(ワークシート、話合い、発言)

イ　自分の好き嫌いにとらわれないで、誰に対しても公平に接しようとする態度について、自分自身との関わりで考えているか。(ワークシート、発言)

⑶　板書計画




⑷　授業観察の視点

ア　学習指導過程の構成と指導の手立て、発問構成は、適切なものとなっていたか。

イ　物事を多面的・多角的に考える学習活動は適切だったか。

ウ　児童の発言や反応を傾聴し、適切に対応し、指導に生かしていたか。